

4

(日)

御言葉を思い巡らす日々

詩編一編

幸いな者 ……。主の教えを喜びとし その教えを昼も夜も
唱える人。(1、2)

幸いな生涯の原点は、「主の教えを喜びとし その教えを昼も夜も唱える」という生活にあります。「唱える」という言葉は、他の訳では「口ずさむ」あるいは「思い巡らす」と訳されます。心の中にしつかりと留めて、「どういう意味だろうか」と繰り返し思い巡らす姿を表します。食べ物は噛んでいるうちに口の中で味が変わってくるように、御言葉も噛めば噛むほど味わいが豊かになります。さらに、詩人は「昼も夜も」と語ります。現代人がどこへ行くにもスマホを持ち歩くように、信仰者はいつでもどこへ行くにも神の言葉を心に携えながら生きるものです。そのとき、「その人は……時に適って実を結び」(3)と約束されています。私たちの信仰生涯がやがて豊かな実を結ぶに至ることを信じて、この年も、昼も夜も御言葉を思い巡らす日々を歩もうではありませんか。